

理事候補者 9名

氏名 勤務先	理由・抱負
山根伸吾 藍野大学	2期目の立候補となります。1期目では機関誌編集と広報に関わらせていただきました。また令和2年度には、日本作業科学研究会第24回学術大会の大会長を仰せつかりましたが、COVID-19の影響のため、令和3年度の開催に延期をしております。まずはこの大会を成功させることに尽力したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。
ボンジェ ペイター 東京都立大学	本研究会は、2020年に日本学術会議協力学術研究団体を指定されました。その指定を期待しながら、機関誌が博士号研究の投稿先になるために、2018年から機関誌の編集制度と投稿規定を改良することを貢献できました。そして、私は、本会がますます発展するように微力ですが、特に、機関誌の論文投稿をさらに促進したり、国内の作業科学成長と発展をしたりつとめたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
高木雅之 県立広島大学	作業レンズを普及させ、誰もが作業を通して健康や幸せになれる社会を創っていきたいと考えています。作業科学はそのような社会の実現に貢献できると考えています。理想とする社会の実現に向けて、作業について対話し考えること、作業の知識を活用して社会を変えることを促進していきたいと考えています。
中塚 聡 諏訪共立病院	理事として2年間、主に研究推進班を担当し、活動してきました。理事の中では数少ない臨床家という立場から、今後も日本で作業科学という学問の認知度が高まるような活動の普及を推進し、作業の知識を生み出す研究や、作業科学により生み出された知見を活かし、より質の高い作業療法実践がなされ国民に寄与できるよう、理事として活動したいと考えています。
齋藤さわ子 茨城県立医療大学	作業科学は、学術的な発展とその知見に基づく実践の2本柱で、その重要性や価値が認められるものだと思います。私は、現在大学教員をしております、また作業療法士であるので、まずは新たな作業療法実践につなげていけるような知見を生み出す学術的な発展に寄与したいと考えております。また、研究会も世代交代の時期がきていると感じています。若い世代の人と話をしていると、作業科学は大事だと思うけれど、研究会そのものには魅力を感じないという意見も聞かれます。若い世代に魅力を感じて

	<p>もらえるような研究会にしていけるようなつなぎ役の立場で務めたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>港 美雪 茨城県立医療大学 (非常勤講師)</p>	<p>作業療法士にとって作業科学が身近な存在となるよう、会員の皆様と一緒に動きを作りたいと思い、理事に立候補いたします。</p>
<p>坂上真理 札幌医科大学</p>	<p>事務局を担う理事として、本研究会の運営に携わって参りました。昨年度は、会員と役員の皆様のご尽力とご協力を賜り、本研究会が日本学術会議協力学術研究団体への登録を果たすことも出来ました。本研究会が作業の知識の発信地や対話の場として一層活発に活動できるように貢献したく、理事に立候補いたします。</p>
<p>今井忠則 北里大学</p>	<p>作業科学（OS）の発展は、OTにおける作業中心の実践の基礎・応用研究として、また、健康・行動科学における「作業を中心とした研究」として重要です。しかし、その重要性和比べて、日本のOS研究の学会・論文発表の数と質は現状では十分とは言えません。研究活動を通じた知識の創造と蓄積は、学術団体としての中核的役割であり、存在意義と言えるでしょう。そこで、私は理事として、学術・論文発表の活性化と持続可能な運営システム（査読制度等）の構築に寄与したいと考えます。将来的には作業療法学を背景とした者だけでなく、「作業」に関心を持つ他学問領域の研究者が多数在籍するような学際的な学会となることを志しています。</p>
<p>近藤知子 杏林大学</p>	<p>私は、日本作業科学研究会の広報、学術などの領域で12年間、作業科学研究会組織に携わって参りました。昨年、一昨年は理事を退きましたが、機関誌「作業科学研究」の編集委員長、また、研究推進班の委員として数多くの作業科学研究に触れるとともに、研修会等の企画をしております。今年、日本作業科学研究会は学術研究団体に指定され、これまで以上に、「作業に関わる学術的研究をより多くの人々に知っていただく」という役割をより強く担うようになりました。そこで、私は自分が培ってきた経験を、日本作業科学研究の新たな発展に生かすことが出来ればと考え、再度理事として立候補することに致しました。特に、若手研究者が確信をもって作業科学研究に邁進し、また、作業を用いる若手の実践者がその効果や経験を他者に発現できるような場作りに貢献したいと願っています。</p>

監事候補者（2名）

氏名 所属	理由・抱負
<p>若井亜矢子 札幌リハビリテーション専門学校</p>	<p>札幌医科大学大学院で作業科学に出会い、Zemke 先生、Clark 先生、佐藤剛先生から直接、仲間とともに学んだ経験は、年月を重ねても色鮮やかです。その学びを本研究会に学びを求めている作業療法士や多くの研究者の皆様に改めて広く還元し、ともに成長いたします。今後、新しい生活に向けて作業の力はますます必要とされ、本研究会のより一層の社会貢献が期待されるでしょう。その一翼を担いたいと考え、監事に立候補いたします。</p>
<p>西野 歩 NPO 煌めく返り花</p>	<p>前期は理事として、三役と共により学術団体承認の準備、学術の推進に尽力してきました。バランスのある物の見方を心掛け、研究会、理事会、参画しているニュース班、編集委員会で勤めを果たしてきたつもりです。監事になることができれば、現在、社会課題と批判的作業のレンズをもって活動をしています。現在の職務である NPO の代表理事の経験で身に着けた会務運営や会計の知識などを研究会にて活用したく、監事に立候補します。</p>

原文のまま記載しました